

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1271500595
法人名	社会福祉法人 光誠会
事業所名	グループホーム フローラもばら
所在地	千葉県茂原市谷本1127-1 (電話) 0475-25-6688

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年1月12日

【情報提供票より】(平成20年11月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 9.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 250,000 円	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,500 円				

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	12 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	茂原機能クリニック、 君塚病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄骨平屋建ての「グループホーム フローラもばら」は、デイサービスセンターと老人介護支援センターが併設された広い敷地の中にある。施設の前は入居者と共に育てた花が咲き、ベンチが設置されてくつろぎの場となっている。施設内は全面バリアフリーで、オープンキッチンが中央に設置され、職員の目が行き届くようになっており、入居者の安全面に配慮している。天窓からの光を取り入れて明るく開放的な造りとなっている。ユニット間を行き来して入居者同士の交流を図ると共に、併設デイサービスとの合同行事やボランティアの受け入れ等で外部との交流も図っている。また、法人内・施設内に複数の委員会を設置しており、入居者の希望に応じたサービスを提供できるよう定期的に検討が行なわれている。旬の食材や活動を通じて入居者に季節を感じながら生活してもらえるような工夫を行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価において、地域密着型施設としての理念の追加、運営推進会議の開催回数、鍵をかけないケアの実践についてが改善点として挙げた。評価結果公表後、検討を重ね、各項目の見直しを行い、改善に向け取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価においては、管理者が中心となり、職員の意見を確認し、作成している。作成後は職員会議にて報告し、職員全員の理解を得ている。評価結果においては、改善点を職員全員で話し合い適切な改善を図っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、市職員・民生委員・長寿クラブ・家族・入居者・職員を構成員として、6ヶ月に1回開催されている。会議では、写真を交えた活動報告や情報交換・質疑応答を行い、施設理解の促進を行なっていると共に、認知症についての講習を行い認知症の理解促進にも努めている。また、緊急時・災害時における地域の協力を呼びかけている。前回評価の反省を基に、出席率の向上や会議の充実化を図る為、改善を行なった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置していると共に、家族の面会時に意見や要望を確認している。また、今年度より個別面談を実施して、家族の意向の把握に努めている。挙げた意見や要望に関しては、職員会議で検討し、適切な改善を図っている。年1回、家族会を開催し、意見や要望を確認している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民とは散歩時に挨拶を交わす関係が築かれている。ボランティアや地域老人会の来訪が行なわれていると共に、地域行事・施設行事へ相互に招待をし、外部との交流を深めている。また、子供110番や地域の小学生の職場体験受け入れ等も行い、地域貢献にも努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり楽しく自立に向け尊厳ある生活支援・地域との結びつきを大切に、地域の一員としての生活支援」を主眼とした独自の理念を作り上げている。前回評価の反省を基に、地域密着型サービスとしての役割等を理念に追加している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が事業所内に掲示されていると共に、職員会議や申し送りの時に理念の確認を行い職員への周知を図っている。職員は常に理念を意識して、温もりを大切にされた支援を行っている。また、家族へは契約書に理念を記載して説明を行うと共に、面会時に理念に向けた取り組みの報告を行い理解を得ている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民とは散歩時に挨拶を交わす関係が築かれている。ボランティアや地域老人会の来訪が行なわれていると共に、地域行事・施設行事へ相互に招待をし、外部との交流を深めている。また、子供110番や地域の小学生の職場体験受入れ等も行い、地域貢献にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においては、管理者が中心となり、職員の意見を確認し、作成している。作成後は職員会議にて報告し、職員全員の理解を得ている。評価結果においては、改善点を職員全員で話し合い適切な改善を図っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市職員・民生委員・長寿クラブ・家族・入居者・職員を構成員として、6ヶ月に1回開催されている。会議では、写真を交えた活動報告や情報交換・質疑応答を行い、施設理解の促進を行なっていると共に、認知症についての講習を行い認知症の理解促進にも努めている。また、緊急時・災害時等における地域の協力を呼びかけている。前回評価の反省を基に、出席率の向上や会議の充実化を図る為、改善を行なった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは、施設運営全般に関する相談や情報交換等を随時行い、密に連絡を取り合う関係を築いている。また、市の社会福祉協議会が主催するバザーに、入居者と共に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、入居者の生活状況や金銭報告を行うと共に、写真や行事予定等を交えた手紙を毎月送付している。また、生活状況に変化があった場合には、随時電話にて連絡を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していると共に、家族の面会時に意見や要望を確認している。また、今年度より個別面談を実施して、家族の意向の把握に努めている。挙げた意見や要望に関しては、職員会議で検討し、適切な改善を図っている。年1回、家族会を開催し、意見や要望を確認している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や入職があった場合は、入居者へ紹介をしている。入職後は、慣れた職員と一緒に業務を行い、入居者とのコミュニケーションを図り、出来るだけ早く馴染みの関係が築ける様に配慮している。また、居室担当制を行なっているが、入居者の様子を見て、その人に合った職員が担当するよう配慮している。		職員の顔と名前を覚えてもらう工夫をする事で、家族との繋がりをより一層深めて頂く事を望みます。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは積極的に参加を促している。研修参加後は、報告書の作成や報告会の実施にて、職員全員で情報の共有を図っている。内部研修においては、研修委員会を設置し、年間計画を立てていると共に、定期的に研修会を開催し、職員の育成とサービスの質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム連絡会にて、研修会や意見交換が行なわれ、職員同士の交流が行われていると共に、他施設の見学会が実施され、他施設の良い所を取り入れてサービスの質の向上に取り組んでいる。法人内の介護保険事業所との合同会議が定期的で開催され、情報交換や交流の場となっている。また、施設の敷地内に職員寮があり、日頃から各施設の職員同士が交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時見学を実施していると共に、希望に応じて体験入居も実施しており、施設の方針や雰囲気を理解してもらってからの入居となっている。入居後は、職員が声掛けの工夫や生活暦に合わせた支援により、できるだけ早く馴染みの関係が築けるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の能力や希望に応じて、家事や畑仕事等の生活活動を共同で行っている。入居者は、それぞれの得意分野で役割を持ち生活を送っている。職員は、入居者の豊富な人生経験から多くの学びを得ると共に、思いやりやコミュニケーションの大切さを教えられ、互いに支え合う関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に訪問面談を行い、本人や家族から生活歴等を確認している。入居後は、意向や留意点・職員の気付き等を記録し職員全員に周知を図り、本人本位の生活を送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を踏まえた上で、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。原案作成後に職員から意見や情報を確認し、訂正を行った上で介護計画の作成をしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援経過表と定期的な評価を行い、6ヶ月に1回を目標に計画の見直しを行っている。また、生活状況に変化のあった場合や必要であると判断された場合は、その都度見直しを行っている。見直しにおいては、本人・家族の意向を踏まえた上で、職員と意見交換を行い、介護作成担当者が介護計画の作成を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスと連携して、合同行事やレクリエーションを実施すると共に、入居者の状況に応じて特殊浴槽等の設備も利用している。福祉車両を所有しており、大人数での外出が可能となっている。また、買い物や外出等、入居者の希望に応じて柔軟な支援を行っている。移動美容室を利用して、身だしなみの支援を行っている。複数の委員会を設置して、話し合いの場を多く持ち、入居者のニーズに答える為に独自の活動を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、かかりつけ医への受診が可能となっており、希望により、通院の付き添いも行っている。また、必要に応じて往診を実施しており、適切な医療が受けられる体制が築かれている。看護師の職員により、日常の適切な健康管理がなされていると共に、法人内の栄養士に相談し、適切な栄養管理がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、施設の方針や対応方法を明文化し、同意を得ていると共に、面談にて家族の意向を確認している。必要に応じて、家族や医師と相談しながら本人・家族の意向に添った終末期に向けた支援を行っている。今後もグループホームとして出来る限りの支援をしていけるよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の書類については、事務所に保管し個人情報の保護を図っている。職員には、定期的に接遇マナーの研修を実施すると共に、日常業務にて随時指導を行い、入居者のプライバシーに配慮している。居室には鍵が設置され、入居者の尊厳の尊重に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画にて個別にスケジュールを立てているが、本人の希望やペースに合わせて柔軟に対応し、自由な生活を支援している。希望を言い出せない入居者に対しては、声掛けの工夫や、日々の観察の中から把握するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付け等を共同で行っている。平日の昼食は、併設のデイサービスから配食を受け、その他の食事は法人内の栄養士が作成した献立を基に、入居者の希望や旬の食材を取り入れた食事を提供している。給食委員会を設置し、入居者の希望を取り入れた食事や外食会・手作りおやつ等について検討を行い、食の楽しみを支援できるよう努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望や状況に応じて、時間や回数等柔軟な対応を行っている。清拭・足浴の実施や併設デイサービスの特殊浴槽の利用等、体調や能力に応じた清潔保持がなされている。浴室に転倒防止のマットを設置し、安全面に配慮していると共に、エアコンが設置されており、快適な入浴を支援している。入浴拒否においては、声掛けやタイミングを工夫して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。裁縫・手芸・園芸等得意分野を活かした活動の支援が行なわれている。また、併設のデイサービスと連携し、合同行事・レクリエーション・ボランティアの受入れ等を実施しており、入居者は自由に参加している。近隣小学生の職場体験を受け入れ、世代間交流を図っている。レクリエーション委員会・外出委員会等が設置され入居者の生活の活性化に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や希望に応じて散歩支援を行なっていると共に、個別・グループ別の外出を実施し、入居者が戸外に出掛ける機会を設けている。外出委員会を設置し、外出会についての検討を行なっている。また、敷地内にベンチ・テーブルを設置し、お茶飲み・食事・日なたぼっこ等を行い、入居者の能力や希望に合わせた戸外での楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		鍵をかけないケアの実践	施設前の道路は交通量が多い為、入居者の安全面を		

【千葉県】グループホーム フローラもばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	66	<p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>考慮し、玄関の施錠を行なっているが、職員の配置が手厚い時間や入居者の希望により開錠し、出来る限り自由な生活を支援している。前回評価の反省を踏まえ、玄関外にベンチやテーブルを設置し、外に出る機会を増やすと共に、玄関を開ける時間をなるべく多くできるように体制の見直しを行なった。今後は、施錠について市役所への相談を重ねると共に、家族の意見を確認し、引き続き検討を重ねる予定である。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3ヶ月に一回、併設の施設と合同で消防避難訓練を実施すると共に、グループホーム独自で毎月実施している。施設内各所に避難経路を掲示して、職員への周知徹底を図っている。また、敷地内に職員寮があり、緊急時に協力を得られる体制が整っている。近隣へも、運営推進会議を通して災害時における協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に合わせた、適切な食事提供がなされていると共に、摂取量の記録を行っている。リビングにポットを設置しており、水分摂取を促し、適切な水分量の確保をしている。摂取量が少ない場合は、間食や栄養補助食品等で補い、必要な栄養の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで、玄関・廊下・トイレ等、十分な介助スペースが設けられている。オープンキッチンが部屋の中央に設置されており職員が目が行き届く設計となっている。天窓からの光を取り入れて、とても明るく開放的な造りとなっている。共有スペースにはソファや畳が設置され、入居者が思い思いにくつろげる様になっている。施設内は写真や入居者の作品が掲示されていると共に、季節の飾り付けで明るく楽しい雰囲気作りがなされている。感染症委員会が設置され、毎朝入居者と共に掃除を行い施設内を清潔に保つと共に、食事前には消毒を行っている。玄関には感染症に対する注意を掲示し、消毒アルコールとマスクを設置して、施設内の感染症防止に努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持込む事が可能であり、安心して生活ができるように配慮されている。希望により布団の利用も可能となっている。全居室に洗面台が設置されており、利便性に配慮していると共に、エアコンと換気扇が設置され、適切な空調管理がなされている。		